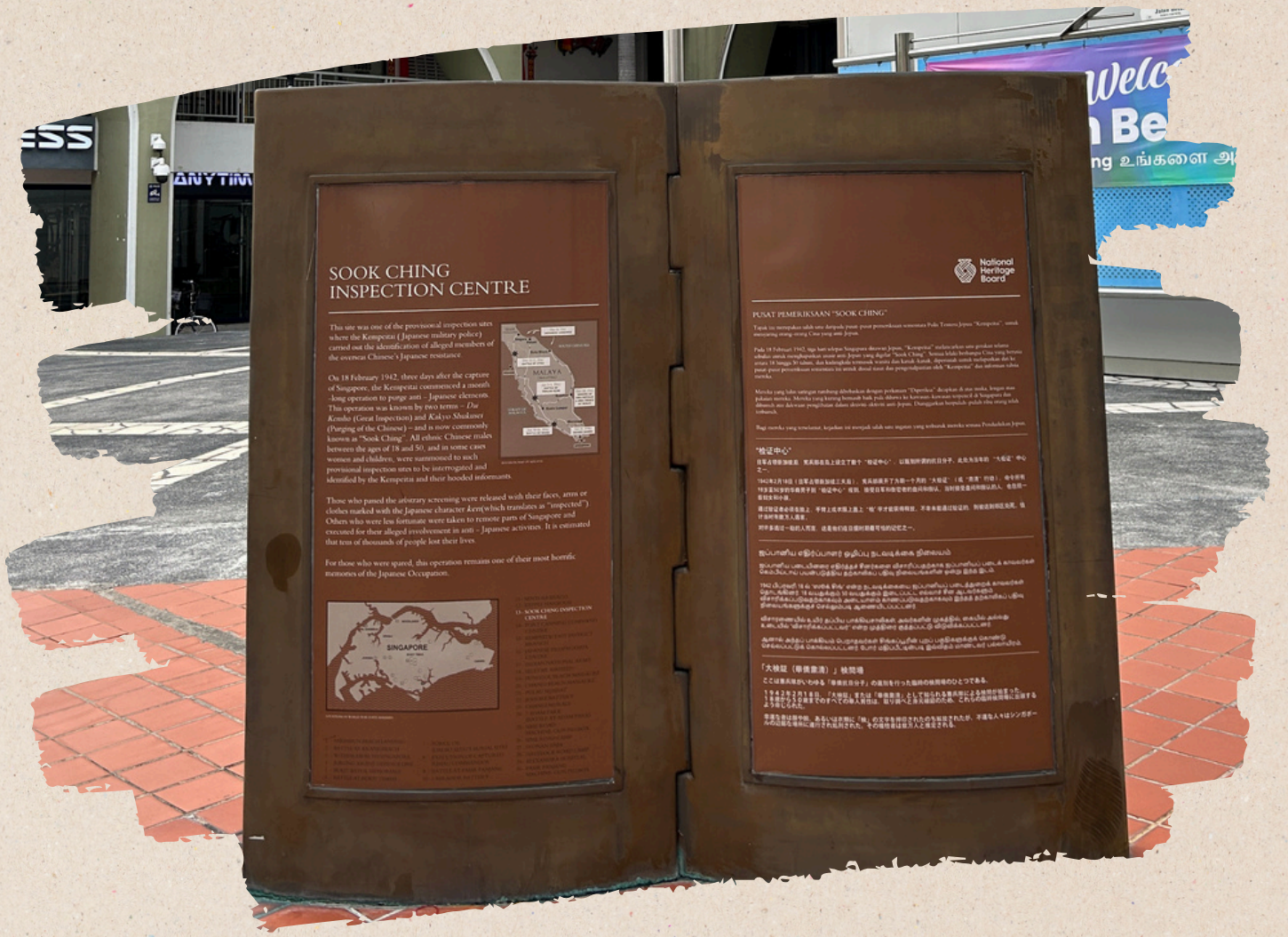
終戦80年

戦跡記念碑をたどる-10



大検証検問場

SOOK CHING INSPECTION CENTRE

2026年6月15日　史蹟史料部

戦跡記念碑 NO.13　大検証（粛清）検問場 SOOK CHING INSPECTION CENTRE

設置場所 : 531 Upper Cross Street, Singapore 050531
（outside DBS Hong Lim Complex）

第 10 回目は、チャイナタウンにある戦跡記念碑をご紹介します。

ホンリムコンプレックスは、粛清（Sook Ching）のための検問・選別が行われた広大な封鎖区域の中心に位置していました。サウスブリッジロードからニューブリッジロードまで有刺鉄線が張り巡らされ、エルギンブリッジ、ノースブリッジロード、そしてクレタ・アヤ周辺も封鎖区域に含まれていました。これは、反日容疑者の逃亡を防ぐためでした。

日本占領下、憲兵隊はホンリム周辺の道路を利用して粛清作戦を実施し、その主な目的は反日分子とみなされた人々を摘発することでした。

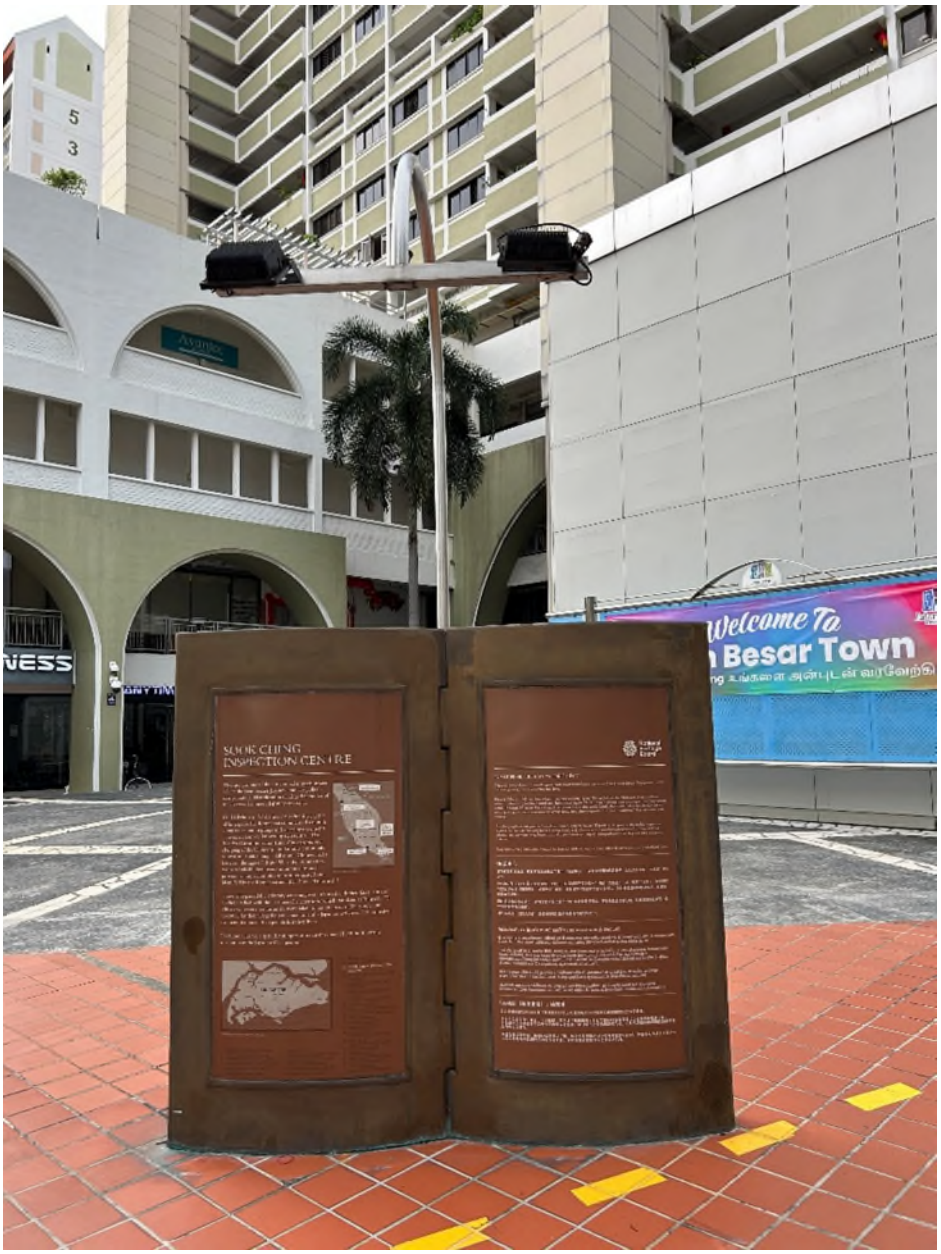
憲兵隊は、軍の情報機関によって反日容疑者としてリストアップされた者、海峡植民地義勇軍（SSVF）の関係者、共産主義者、秘密結社の構成員や略奪者など治安上の脅威と見なされた者、そして武器を所持している者という 5 つの主要なカテゴリーに属する人物を優先的に選別するよう指示されていました。

1942 年 2 月 18 日、憲兵隊による大検証（Sook Ching）が始まりました。18 歳から 50 歳までのすべての華人男性は、取り調べと身元確認のため、これらの検問所への出頭を命じられました。

検査を「通過」した者は、顔や腕、あるいは衣服に「検」の文字を押印された後に釈放されました。一方、「不合格」と判断された者はトラックに積み込まれ、処刑のために海岸などの処刑地へ移送されました。

大検証（Sook Ching）の様子（出典：The Japanese Occupation! Singapore 1942-1945）

佐々木賢一さんによる手書きの地図



ホンリムコンプレックスの角にある戦跡記念碑

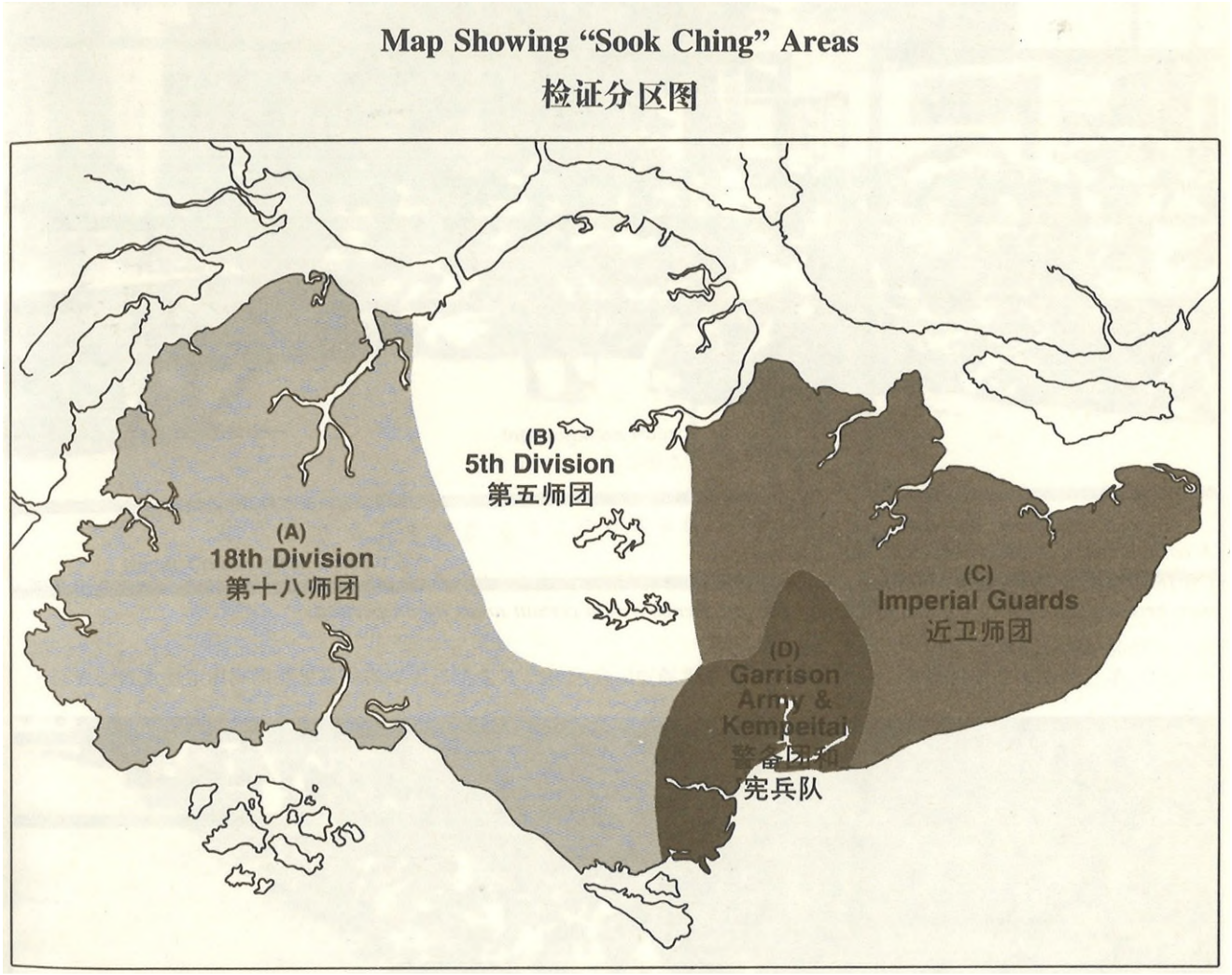
犠牲者数については諸説あり、日本側資料と戦後の証言とでは大きな開きがあります。そのため、現在でも正確な人数については研究が続けられています。

日本軍はシンガポール占領直後、市中心部の主要道路を封鎖し、中国系住民を対象とした大規模な身元調査（検証）を実施しました。その目的は、日本軍が抗日活動への関与を疑った人物や、中国本土への支援活動に関わったとみなした人物を特定することにありました。

検証作業は憲兵隊を中心に行われましたが、人員不足を補うため、各部隊から派遣された兵士が「補助憲兵」として支援に当たりました。また、中国語の理解を補うため台湾人通訳も動員されました。

選別の基準については明確な記録が残されていない部分もありますが、戦後の証言には、十分な調査が行われないまま不合格と判断された事例や、通訳や検査担当者の主観的判断が結果に影響した可能性を指摘するものもあります。

大検証（Sook Ching）はホンリム地区だけで行われたものではなく、憲兵隊に加えて近衛師団、第五師団、第十八師団も関与し、シンガポール島内各地に設けられた検証所で実施されました。



大検証（Sook Ching）区分図（出典：The Japanese Occupation! Singapore 1942-1945）

文責：史蹟史料部　両頭真衣